



自然保育について考える

令和7年1月25日(土)に、信州やまほいく推進研修会がありました。おそらく参加された方もいるかと思いますが。長野県は2015年より「信州型自然保育認定制度」を創設し、すべての就学前施設が自然保育に参加できる仕組みを作りました。令和7年1月末現在、やま保育の認定を受けている園は300を超えています。今回の研修では、「“やまほいく”を通して考える保育の質と子どもの育ち」と題し、上越教育大学の山口美和先生の講演がありました。その講演から自然保育について学ばせていただいたことをまとめてみましたので、参考にしてみてください。

(1)なぜ、いま「自然保育」なのか ～幼児期における自然体験の重要性～ について

- ・現在多くの先進国で、社会の“自然離れ”が急速に進んでいる
 - ・自然離れは、今後、健康や文化、教育など様々な面で深刻な負の影響を及ぼす恐れがある
 - ・自然離れを食い止めるには、大人が自然に対してポジティブな態度を持ち、子どもを自然の中に連れ出すことが必要
 - ・自然体験、生活体験が豊富な青少年ほど、「自尊感情」が高い傾向がある
 - ・自然体験、生活体験の機会は家庭の意識により二極化している(多いか少ないか)
- ◎すなわち、保育・幼児教育の現場では、意識的に自然と豊かに関われる場を設けることが必要である

(2)屋外での遊びのもたらす効果 について

- ・子どもを外遊び好き群と室内遊び好き群に分け、非認知的スキルの発達の違いを比較
- ・非認知的スキルとして、「レジリエンス」と「自尊感情(自己肯定感)」に着目

○レジリエンス：苦境にあるときに、その状況に打ち克ち、立ち直ることができる性格や行動特性

*レジリエンスの要素：ポジティブさ、思考の柔軟性や行動力、自信

○自尊感情：自分の存在や価値に対する肯定的な感情

*自尊感情には2種類ある…基本的自尊感情、社会的自尊感情

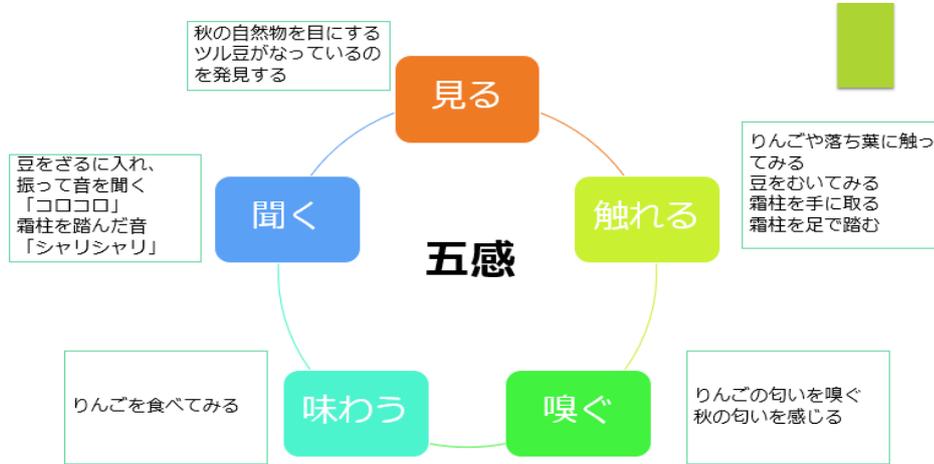
- ・外遊び好き群のレジリエンスの特徴…「困った時考えるだけ考えたらもう悩まない」「困った時、助けて欲しいと周りをお願いできる」「新しい友達や先生に積極的に話しかけられる」「新しい行事や仕事にはすぐに慣れる」「学校で元気に活動することができている」の項目で、優位性が認められた
- ・外遊び好き群の自尊感情の特徴…「運動は得意な方だと思う」「友だちは多いと思う」の項目で、優位性が認められた

◎すなわち、外遊びが好きな子は、ポジティブであり、運動能力に自信がある

◎このことから、屋外での遊びは、試行錯誤を通して、思考力や感性、協働性を伸ばす効果がある

(3)自然保育における子どもの育ちの姿 について

- ・子ども達は、五感を通して自然と向き合い、体感を通して試行錯誤しながら自分の世界を広げている



(4)自然の中での保育者の役割 について

- ・幼児期の自然とのふれあいは、子どもの発達に寄与し、子どもの自然観を形成する基盤となる
 - ・保育者は、「豊かな自然とかかわる」ことよりも、「自然と豊かにかかわる」ことを大切にし、子ども達を支援することが大切（井上美智子「むすんでみよう子どもと自然」より）
 - ・保育者は自然とのふれあいについて、「日常性」と「継続性」を大切にすること
- ◎すなわち、「特別な自然ではなく、今ここにある自然」を見直すことが大切

(5)「自然保育」で育む豊かな幼児期 について

- ・直接体験の機会を保障すること

◎すなわち、子どもが自然の中で自ら環境に働きかけ、主体的に考え行動するための機会を保障することが、幼児教育の役割

信州型自然保育の認定を受けている園が増えています。確かに園訪問をした際、認定園であることを証明する掲示を見ることが増えてきました。反面、認定はとったものの、自園の保育で自然保育としてどのような事ができるのかと悩んでいる園も少なくないと感じます。その理由の一つに「私の園は、町場で自然が非常に少ないため、自然を生かした保育が思いつかない。」と言うのです。今回の研修で、私が最も印象に残ったのは、井上美智子先生の、保育者は、「豊かな自然とかかわる」ことよりも、「自然と豊かにかかわる」ことを大切にし、子ども達を支援することという言葉です。物理的に豊かな自然環境を望めない園は沢山あると思います。しかし、大切なのは自然の豊かさではなく、今ある自然とどう関わらせるかという視点が重要と思うのです。今回の研修では、長野市後町保育園の実践発表がありました。後町保育園は、長野市の中心部にある保育園で、決して自然に恵まれた園ではありません。しかし、狭い園庭から地域に出て、地域の自然を教材とした自然保育を展開しています。とても素晴らしい実践と感じました。ある町場の園を訪問した際、園長先生が次のようなことを話してくださいました。「落ち葉拾いに行った際、穴のあいた落ち葉を見つけた子どもがいました。そして、「この穴を開けたのは誰か？」という子どもの素朴な疑問が、その後の追究に発展していきました。これが私の園が大切にしている自然保育です。」と。自然から感じた子どもの小さな発見を大切にしよう広げていくか。ここに自然と豊かに関わることへの答えがあると思うのです。自園の自然保育について考えてみてはどうでしょうか。（専門員）